

コミュニティにおける防災ワークショップの発話分析

和歌山大学 正会員 ○長曾我部まどか, 国土交通省九州地方整備局 非会員 津口裕己乃, 山口大学 正会員 榊原弘之
茨城県土木部 正会員 中山貴喜, 琉球大学 正会員 神谷大介, 中央建設コンサルタント 正会員 山中亮

1. はじめに 平成25年の災害対策基本法の改正に伴い、「地区防災計画制度」が創設された¹⁾。本制度は、地域の特性に応じた防災計画案を居住者が主体となって作成し、提案できることを特徴としている。さらに、計画作成を行うのみではなく、計画に基づく防災活動の実践、計画の評価・見直しを行い、継続的に地域防災力を向上させることを目的としている。

ワークショップ(以下WS)は、地域の特性を把握したり、防災意識の向上を促したりする効果が期待できる。一方、WSの議論は拡散しやすく、内容整理が困難な点が指摘されており、行政関係者、研究者、コンサルタント等の専門家がファシリテーターとして関与することが有用とされている²⁾。

本研究の目的は、1) WSにおける参加者の発言の特性と2) 参加者と専門家(ファシリテーター)間の認識の差異を明らかにし、防災WS運営の在り方について考察を行うことにある。2013年に沖縄県国頭郡国頭村与那区で実施されたWSを対象とし、発言録のテキスト分析を行う。

2. 沖縄県国頭郡国頭村の概要 沖縄県国頭郡国頭村は沖縄本島の最北端に位置しており、20集落が存在する。多くの集落は小さな河川の河口付近や海岸沿いに点在している。国頭村の主な災害は台風による風水害であり、越波等に伴う通行止めが毎年発生している。また、沖縄県の想定規模の津波が発生した場合、国頭村の集落の大半が被災し、幹線道路が冠水し道路ネットワークが寸断される事が予想されている。そのため、2013年から地区単位での防災への取り組みが行われている³⁾。

国頭村与那区では、2013年に地域防災を考えることを目的としたWSが開催された⁴⁾。開催概要を表1に示す。専門家には、行政関係者、大学関係者、コンサルタントを含む。本研究では、第1回及び第2回WSを分析の対象とする。

3. 分析手法 分析の手順を図1に示す。まず、発言

表1 与那区 WS の概要

	第1回	第2回	第3回
実施日	2013.10.29	2013.12.15	2014.3.6
住民	13人	11人	11人
専門家	7人	10人	9人

表2 グループの概要

A班(男性)	B班(男性)	C班(女性)
老人会代表	建設会社員	民生委員
役場職員	公務員	子供会役員
農業委員	社会福祉委員	共同売店
他	他	他



図1 分析の手順

録に対し形態素解析を適用し、分析対象とする名詞、形容詞、動詞を抽出する。人名や地名といった固有名詞や、類似した語については、統合して扱うこととする。次に、分析単位ごとに語の頻度を集計し、頻度データを作成する。今回は、実施回別、班別、発言者別に集計を行う。最後に、頻度データに対してコレスポネンデンス分析を適用する。

4. 分析結果と考察

(1) 班単位に基づいた分析結果 図2は、第1回及び第2回WSにおいて出現した単語を班単位で集計し、総出現頻度の高い106語に対し、コレスポネンデンス分析を適用した結果である。「1A」「1B」「1C」は第1回WSのA、B、C班を示し、「2A」「2B」「2C」は第2回WSのA、B、C班を示す。A、B班は男性班、C班は女性班である。

図2より、軸の解釈を行うと、横軸の正負によって第1回WS(1A, 1B, 1C)と第2回WS(2A, 2B, 2C)が区分されている。縦軸の正負によって、男性班(1A, 1B, 2A, 2B)と女性班(1C, 2C)が区分されている。各班の単語に着目すると、以下の考察が得られる。

- ・第1回WSにおいて男性班(1Aと1B)は、「津波」、「危険」、「砂」、「道路」、「台風」といった語が

キーワード 防災計画, ワークショップ, コレスポネンデンス分析

連絡先 〒640-8510 和歌山県和歌山市栄谷930 地域創造支援機構

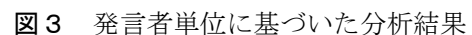
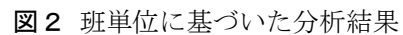
TEL 073-457-8342

- ・第2回WSにおいてB班(2B)は、「住む」、「独居」、「年齢」といった語から、集落内の居住状況について議論した。
- ・女性班(1Cと2C)は、「食料」、「食材」、「心配」、「子供」といった語から、第1回、第2回WSを通して、災害時の食料について議論した。

(2) 発言者単位に基づいた分析 図3は、A 班の第1回WSと第2回WSにおいて出現した単語を発言者単位で集計し、総出現頻度の高い73語に対し、レスポンス分析を適用した結果である。1と2はWSの実施回、a~cは個々の住民、Fはファシリテーターを示す。分析結果から以下の内容が明らかになった。

- 以上の分析より、各班の討議内容に差異があること、特に男性と女性グループの発言内容に差異があること、初期のWSでは住民とファシリテーターの発言内容には差異があること、WSを重ねることで両者の発言内容が収束することが示された。

5. おわりに 本研究では、沖縄県国頭村与那地区で実施された防災WSの発話を分析し、地域住民と



参考文献

- 330 —